



三重の子 10月

＜学校指標＞

— かしこく やさしく たくましく —

足利市立三重小学校
校長 浅海 紀幸

秋 みんなの「^{チャレンジ}挑戦！」を応援しています。



朝晩の風に秋の深まりを感じられる季節となりました。

2学期が始まって1ヶ月、子供たちは毎日元気に学校生活を送ることができています。

学校では、5日(木)の学校音楽祭、12日(木)に行われる陸上記録会に向けた練習にそれぞれ熱がはっています。心配される新型コロナウイルスについては、感染対策を十分に施し、各行事の目的が達成できるように取り組んでいます。



おかげさまで、9月は、学校公開、3年生・1年生の遠足が計画どおり実施できました。これからも、様々な活動をとおして子供たち一人一人がいろいろなことに「^{チャレンジ}挑戦！」できるよう支援していきたいと考えます。引き続き、ご家庭におかれましても「基本的な感染予防対策」を徹底し、子供たちが安心して活動に取り組めますよう、ご支援、ご協力をお願いいたします。

「読書の秋」を楽しんでみませんか！



秋の取組の中で、読書に一番適した季節であるということから由来する読書の秋。中国・唐代の文人である韓愈(かんゆ)が残した詩の中に「燈火(とうか) 親しむべし」という一節があります。これは、「秋になると涼しさが気持ちよく感じられる。そんな秋の夜長はあかりをつけて本を読むのに適した季節である」ということで、韓愈が息子に勉強を勧めた言葉として知られています。この言葉が「読書の秋」という言葉の由来とされています。

子供の活字離れや国語力の低下、対話による問題解決能力の低下などが指摘される中、読書活動はこれらの能力を高めるだけでなく、豊かな心と確かな学力を育むための大切な取組としてその重要性は増しています。読書活動は子供が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をよりよく生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

今は、テレビやゲーム、動画配信など、読書以外に子供たちを魅了するものがたくさんあります。今の時代、これらをすべて否定することはできません。ですから、ゲームなどの約束をご家庭できちんと確認し、「ゲームやタブレットなどもいいけど読書も楽しいよ。」と、読書の機会をつくっていただけるとありがたいです。

子供たちに読書の魅力を伝えるために、ご家族が本に親しんでいる姿を見せることはとても有効です。例えば、保護者の方が小学生のときに読んでいた本を紹介することや、同じ本を一緒に読んで感想を伝え合うことも、本に親しむきっかけになるでしょう。また、曜日や時間を決めて、家族そろって読書をする時間をつくのもよいと思います。「読書の秋」は子供たちだけのものではありません。みなさんで「読書の秋」を楽しんでみませんか。

楽しい遠足の思い出

3年生遠足

【9月21日（木）宇都宮市 栃木県子ども総合科学館】



「暗闇体験の部屋がおもしろかった。」
「プラネタリウムでチョコちゃんが星の話をしてくれて楽しかった。」
子供たちは口々に遠足の楽しかったことを話してくれました。学校では体験できない活動を通して、たくさんの楽しい思い出をつくってくれたようです。

1年生遠足

【9月29日（金）太田市 ぐんまこどもの国】



「大きな滑り台が楽しかった」
「お友達と一緒に食べたお弁当がとてもおいしかった。」
「どんぐりをいっぱい拾ったよ。」
天気にも恵まれ、子供たちは広い園内を走り周りみんなで楽しい時を過ごしました。次は運動会をめぐしてがんばりましょう。

